

【A班】 自治基本条例 なぜつくるのか？

◆背景・現状（課題）、そして→今のままで予想される未来

1) 少子高齢化

- ・生産年齢人口の減少→町の税収も減少傾向に進むのではないかな？
 - ・自治を担う人たちが高齢となる
 - 今までの仕組みのままで良いのか？（役場だけでなく、自治組織やその他のまちづくりグループなども含めて）
 - ・人やお金という地域の「財産」が、今までの右肩上がりから右肩下がり時代へ
- ※「あれもこれも」から「あれか、これか（選択と集中）」の時代へ

2) 生活様式の多様化

- ・職住一体（農業中心の時代）から職住分離（都市化の時代）へ
- ・住民が自分の地域に住む時間が短くなっている
 - 地域に愛着や誇りを持つ人が少なくなっていくのではないかな？
 - 新しい生活様式や価値観が増える中で、今までの価値観と対立が起きるのではないかな？

3) リニア時代の到来

- ・東京まで40分、名古屋まで15分。
 - 地域に誇りや愛着を持たない若者は流出してしまうのではないかな？
 - 新しい価値観の流入。今のままで新しく入ってくる素晴らしい考え方や文化に対応できるのか。
 - まずは違いを受け入れ認め（多様性を認める）、そこから高森町の良さに気付く人づくりが必要ではないかな？
 - その一方で高森町の大切なものが失われるのではないかな？

4) 地方分権の流れ

- ・国と地方との関係が見直され、権限と責任が国から身近な市町村に委ねられる
 - 市町村の底力が試される→同じ税金を払っているのに、市町村によって差が生まれるのではないかな？
- ・「自分たちのことは自分たちで決めて、行動を起こす」という時代へ
 - 本当の意味での自立的で自律的な地域経営が求められる
- ・自治体の中でも権限移譲が進む時代へ
 - 今までの行政主導の仕組みから市民主導の動きがこれから一層求められるのではないかな？

◆目的
団体自治（町政）と住民自治のバランスを（力を均一化）する事→地方自治権をめざすことを実現する

法体系の考え方の整理（まちの憲法、他の条例などに対し法的な優位性はあるのか）

流出・・・農地があれて気力も失われる、どこかに出たい問題の解決力、人間力は出ないかな？

現状課題
及び
原因

文化の違い（意識の違い。欧米のような市民が勝ち取った自治と、日本のように上から与えられた自治の違い）

◆目指す高森町の姿

- ・高森町の町民であることに喜びを感じ、町を愛し町に誇りを持てるために。
- ・町民ひとりひとりの意志が反映できる住民参加のまちづくりを目指すために。

高森町の良さとは何か？
共有するものはあるのか？

目指すべき姿
あるべき姿

◆自治基本条例の目的

- ・昔からいる人も新しく来た人も、男性も女性も、老人も子どもも、町政に参加できる。その保険（保障）となるのが、この条例。
- ・世代や時代が変わっても、住民ひとりひとりが地方自治に参加し、一緒に考えて学び、一人一人がつながり、1+1=2以上の力を発揮する（創発）するための権利を保障する
- ・今までの住民参加の実践を大切にしながら、変えていくべきもの、変えてはいけないもの、そして後世へ伝えていく、つなげていくものがある。それを明らかにし（暗黙知から形式知へ）、共有する・伝承する・常に検証し改善を実践に移すことを促進するための条例。
- ・これらのことを進めていくために、行政・議会・住民・各団体の役割を明らかにする。

◆上記の課題を解決するための三原則

1) 町の情報が共有される

- ・町や地域の課題は何か、何が問題になっているのか？これを共有できるシステムづくり（これが基本）
 - ・それぞれの立場が持っている情報・強み・才能が共有でき、つながるシステムづくり
- 町民はこれを行政や議会に要求できる、それを行政や議会はしっかり受け止め返事を返す

2) 町民一人一人が地域経営に参画できる

- ・地域経営とは行政のみならず、議会、自治組織、企業、各種団体、全てが行うもの。
- ・経営とはお金を稼ぐことではなく、多様な参加を認めながら、今の現状を把握し実行し検証し、そして成長していくこと
- ・町民一人一人は、個人の立場に応じて、その地域経営に参画できる権利を持つ。
- ・行政⇄町民、行政⇄各種団体、行政⇄企業という1対1の縦の関係ではなく、それらが横に繋がり、それぞれの力を発揮する。

3) 自ら学び、人も育てる場や機会の創出をする

- ・自らの地域を知ることが、自分が住む地域の愛着や誇りを生む。
- ・人と人が知り合うためには、お互いを知る場や触れ合う場が必要であり、その場で多様な考えなどに気づき、認めあうことにつながる。（社会的ジレンマの抑制）
- ・新しい考え方に対して常にアンテナを張り、それを吸収して（あるいは選別して）成長していく町の風土を作る。

「現状」と
「あるべき姿」を
埋める
解決方法

【B班】 自治基本条例 なぜつくるのか？

◆背景・現状（課題）、そして→今のままで予想される未来

1) 少子高齢化

- ・生産年齢人口の減少→町の税収も減少傾向に進むのではないかな？
 - ・自治を担う人たちが高齢となる
 - 今までの仕組みのままで良いのか？（役場だけでなく、自治組織やその他のまちづくりグループなども含めて）
 - ・人やお金という地域の「財産」が、今までの右肩上がりから右肩下がり時代へ
- ※「あれもこれも」から「あれか、これか（選択と集中）」の時代へ

背景には人口減少も加えるべき

経済活動の場は増えるのか？

町民に危機感はあるのか？
このような問題・課題が共通認識されているか？

近未来
少子高齢化
もう少し先の未来で世代交代（人口減少）
→変化に耐えられる？

2) 生活様式の多様化

- ・職住一体（農業中心の時代）から職住分離（都市化の時代）へ
- ・住民が自分の地域に住む時間が短くなっている
 - 地域に愛着や誇りを持つ人が少なくなっていくのではないかな？
 - 新しい生活様式や価値観が増える中で、今までの価値観と対立が起きるのではないかな？

地域課題の多様化・複雑化

ボーダーレス社会に一步近く
・生活様式
・距離（時間）
・情報

コミュニケーションの希薄化

3) リニア時代の到来

- ・東京まで40分、名古屋まで15分。
 - 地域に誇りや愛着を持たない若者は流出してしまうのではないかな？
 - 新しい価値観の流入。今のままで新しく入ってくる素晴らしい考え方や文化に対応できるのか。
 - まずは違いを受け入れ認め（多様性を認める）、そこから高森町の良さに気付く人づくりが必要ではないかな？
 - その一方で高森町の大切なものが失われるのではないかな？

4) 地方分権の流れ

- ・国と地方との関係が見直され、権限と責任が国から身近な市町村に委ねられる
 - 市町村の底力が試される→同じ税金を払っているのに、市町村によって差が生まれるのではないかな？
- ・「自分たちのことは自分たちで決めて、行動を起こす」という時代へ
 - 本当の意味での自立的で自律的な地域経営が求められる
- ・自治体の中でも権限移譲が進む時代へ
 - 今までの行政主導の仕組みから市民主導の動きがこれから一層求められるのではないかな？

現状課題
及び
原因

◆目指す高森町の姿

- ・高森町の町民であることに喜びを感じ、町を愛し町に誇りを持つために。
- ・町民ひとりひとりの意志が反映できる住民参加のまちづくりを目指すために。

高森町の良さ、高森町の大切なもの

住民ひとりひとりが穏やかでありたい

選ぶ自由！都会にはあって地方にはないと、都会の人が感じている

NPOをはじめとする、新たな公共の担い手によるまちづくりへ

人と人とのつながりを求める流れがおこる？

目指すべき姿
あるべき姿

◆自治基本条例の目的

- ・昔からいる人も新しく来た人も、男性も女性も、老人も子どもも、町政に参加できる。その保険（保障）となるのが、この条例。
- ・世代や時代が変わっても、住民ひとりひとりが地方自治に参加し、一緒に考えて学び、一人一人がつながり、1+1=2以上の力を発揮する（創発）するための権利を保障する
- ・今までの住民参加の実践を大切にしながら、変えていくべきもの、変えてはいけないもの、そして後世へ伝えていく、つなげていくものがある。それを明らかにし（暗黙知から形式知へ）、共有する・伝承する・常に検証し改善を実践に移すことを促進するための条例。
- ・これらのことを進めていくために、行政・議会・住民・各団体の役割を明らかにする。

地域課題への対応→多様な主体による総合力のまちづくり

ネットワークづくり
・できる事とできないこと
・得意なこと、苦手なこと
・個性に合わせて役割分担（ちがいを超えて！）

◆上記の課題を解決するための三原則

1) 町の情報が共有される

- ・町や地域の課題は何か、何が問題になっているのか？これを共有できるシステムづくり（これが基本）
- ・それぞれの立場が持っている情報・強み・才能が共有でき、つながるシステムづくり
- 町民はこれを行政や議会に要求できる、それを行政や議会はしっかり受け止め返事を返す

2) 町民一人一人が地域経営に参画できる

- ・地域経営とは行政のみならず、議会、自治組織、企業、各種団体、全てが行うもの。
- ・経営とはお金を稼ぐことではなく、多様な参加を認めながら、今の現状を把握し実行し検証し、そして成長していくこと
- ・町民一人一人は、個人の立場に応じて、その地域経営に参画できる権利を持つ。
- ・行政⇄町民、行政⇄各種団体、行政⇄企業という1対1の縦の関係ではなく、それらが横に繋がり、それぞれの力を発揮する。

3) 自ら学び、人も育てる場や機会の創出をする

- ・自らの地域を知ることが、自分が住む地域の愛着や誇りを生む。
- ・人と人が知り合うためには、お互いを知る場や触れ合う場が必要であり、その場で多様な考えなどに気づき、認めあうことにつながる。（社会的ジレンマの抑制）
- ・新しい考え方に対して常にアンテナを張り、それを吸収して（あるいは選別して）成長していく町の風土を作る。

高森人ブランド、という考え方

コントロールするために、まずは聞く

認め合う心

【懸念】
具体的手段までどのようにつなげるか？運用しながら？

「現状」と
「あるべき姿」を
埋める
解決方法